



越谷市議会議員

福田あきら

活動報告レポート『GET GOAL!』No.16 2015年春号

〒343-0046越谷市弥栄町4-1-120

TEL/ FAX048-978-3335

Mali info@akira-fukuda.com HP http://akira-fukuda.com



※本活動報告レポートは、福田あきら自身が構成(文書/デザイン)をすべて担当しており、最小限の費用にて作成しています。(IT企業出身である強みを活かしています)

救急医療体制&子育て環境を問う!

この度の3月議会は4年間の任期中において最後の定例議会です。最後の議会にて、初めて会派を代表しての代表質問に立ちました。自分が日頃から課題だと感じている点や、今まで継続している予算要望、そして提言中の政策、これらと、会派のメンバーが考える課題とを出し合い、11項目の内容を決定し代表質問にのぞみました。

3月定例議会 代表質問から

①救急医療について

今越谷市が、超高齢社会に突入しているのは皆様もご存じのとおりです。そんな中、高齢社会が進むにあたって、私のもとには救急医療についてのご相談が大変多くなりました。例をあげると次のようなものです。

- ・救急車を呼んだけれどもなかなか来てくれなかった。
- ・いざというときに受け入れてくれる病院があるか心配。
- ・市立病院に電話したが、見てもらえず病院が開く朝まで痛みを耐えながら我慢した。
- ・夜間急患診療所の診療時間を現状の23:00より長くしてほしい。

このように、今後ご年配の方が今よりも増えてくる中で、この救急医療の拡充を求める声はますます大きくなっていくと思われ、その要求は切実です。そこで私は、この度次の2つの視点で質問をしました。



(二次救急の拠点である越谷市立病院)



(今後期待が高まる夜間急患診療所)

①越谷市が今年、代表を詰めている埼玉県東部南地区第二次救急医療対策協議会を中心としての救急医療をどのように拡充していくのか?

②成人夜間急患診療所の時間延長がのぞまれているが、その方向性について

市長からは埼玉県東部南地区第二次救急医療県内の市町、消防、医療機関との連携を図り、体制の拡充につとめていく。夜間急患診療所の時間延長は医師の確保や負担増により現像では難しい。しかし平成27年度からは小児救急の輪番制病院に新たに獨協医科大学越谷病院が加わり、小児の第二次救急医療体制が、より充実することになるとの答弁を頂きました。

小児の第二次救急医療体制の充実は喜ばしいことですが、超高齢社会の中、やはり更なる救急医療の体制の強化は実施しなければならないことだと思います。

今後とも、救急車の出動状況、市立病院の受入れの状況、そして夜間急患診療所の診療時間延長の可能性については常に注目しながら進めていきたいと思っています。

政策実現にむけた工程表

⇒4年間で「何が」「どこまで」実行できたのか?

4年前議員になった時に、自らの政策を工程表(できるだけ目標を具体的)にし、その目標の達成のために活動を続けてきました。自分の力だけではどうにもならないことや、途中で目標変更(都度記載)などもありましたが、最終的には多くのことを実現することができました。IT企業での鍛えられた10年間のサラリーマンの経験を、様々な場所で活かすことができたからだと思います。しかし一番重要なことは市民の皆様から貴重な意見や課題を聞いたことだと思います。すべての問題は現場にある。だからこそ地域の方の声をこれからも、何より大切にしていきたいと思っています。

越谷市議会議員 福田あきら 政策実施のに向けた工程表(2015年3月25日時点)

政策	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	ゴール	進捗
【政策1】地域に根ざしたまちづくり						
①地元産業	予要 質9 質12 予要	予3	予3	予3	都市型農業の進展	都市型農業の実現 いちごタウン創設(達成)
②防災(災害対策)	予要 質9	予3	予3	予3	都市型農業への若手参入 モデルの促進	若手参入の支援モデルの拡充 (80点)
③地域医療	予要	予3	予3	予3	調査(一般質問等) とその改善の実施	新本庁舎建設における提言 本庁舎審議会にて提言(80点)
④自然環境	予要 調3	予3	予3	予3	年配の方の運動促進	散歩を促すための土手の階段の手 すり設置を提案。実現(90点)
⑤イベント	予要 質9 質12 予要 待3	決9	予3	予3	治水対策の改善	ゲリラ豪雨対策など治水対策で政 策提言。実現(90点)
					イベントへの参加と 問題点の改善 ・自治会の活性化 ・公共交通網拡充へ前進	・公共交通網整備推進特別 委員会の設置 ・コミュニティバス施行(90点)
【政策2】『無駄の排除』と『選択と集中』						
財務状況から傾向や問題チェックと改善	予要 決9 予3	予3	予3	予3	継続したチェック改善	超高齢化社会・少子化社会にお ける財政規律の提言(75点)
【政策3】教育環境、子育て環境の整備						
子育て環境の整備(待機児童問題) ⇒トイレの洋式化・エアコン設置を追加(2013年)	予要 調12	予3	予3	予3	待機児童一桁 エアコン設置・トイレ洋式化	エアコン・トイレ洋式化の前進 待機児童の解消(80点)
学校図書館の拡充	予要 調6 終				越谷市独自の予算確保 により一定の目的達成	(達成)
【政策4】ご年配の方へのIT活用の推進						
Cityメールの推進/パソコン・携帯電話教室の開催	予要	予3	予3	予3	Cityメール普及活動	駅頭などでアピール(60点)
【政策5】徹底した情報発信						
行政/議会/国政いろいろな情報をブログにて発信	予要	予3	予3	予3	年間250件発信	1,307件(達成)
【その他】市民の皆様からのご意見募集						
その都度一常に活動・常にチャレンジ	予要	予3	予3	予3	すべての案件において 誠実な対応	ご相談を頂いた件対応中
【報告】議会レポート報告						
議会レポート	予要	予3	予3	予3	16回/4年	16回(達成)
議会報告会	予要	予3	予3	予3	8回/4年	個人3回 合同13回(達成)

尚、政策の詳細および行程表の詳細は
HP <http://akira-fukuda.com>に記載しております。

記号説明 → 事前調査/準備作業/審議 → 実行

● 質...一般質問(数字は実施月) 調...調査実施 予...予算特別委員会 決...決算特別委員会 数字...回数を表す
特別...その他特別委員会 予要...予算要望 審議...審議会 治水...治水要望(提言)

福田あきら(39歳)プロフィール

【所属会派】民主党・市民ネットワーク

【常任委員会】民生常任委員会

【その他役割】議会運営委員会、土地開発公社監事、越谷・松伏水道企業団

1975年越谷市に生まれる(昭和50年5月28日生まれ)
 1982年清浄院幼稚園卒園
 1988年越谷市立桜井南小学校卒業
 1991年越谷市立越谷北中学校卒業
 1994年埼玉県立越谷北高等学校理数科卒業
 1998年法政大学法学部法律学科卒業
 2000年現:伊藤忠テクノソリューションズ(株)入社
 ⇒IT企業のサラリーマンとして10年勤務
 2011年越谷市議会選挙に挑戦し当選

●資格基本情報技術者/宅地建物取引主任者等
 ●家族妻と長男、次男、チワワ2匹
 ●サッカー選手としての経歴
 ・越谷フットボールクラブ(小学校1年~6年/社会人)
 ・水戸ホーリーホック【現Jリーグ2部】
 ・全国社会人サッカー選手権大会優勝
 福島/広島国民体育大会(国体)サッカー優勝
 など三度の日本一を経験
 ・現在、越谷市サッカー協会副会長を拝命

★電話による市民相談窓口 048-978-3335

基本:平日10:00~18:00大変恐縮ですが、番号通知(表示)がある方のみ対応となります。もし留守電の場合は要件を録音願います。確認後、折り返し連絡させていただきます。



会派 民主党・市民ネットワークを代表して11項目を市長に問う！

3月定例議会 代表質問から(続き)

②障がい者雇用について

障がい者雇用を促進するためには、経営者の方から障がい者の方の雇用についての正しい知識をもってもらうことが必要です。そのためにはまず、行政が積極的に雇用を実施していく必要であります。また、その雇用状況について情報発信していくことが、越谷市全体の障がい者雇用を広めることにつながると考えます。そこで越谷市の障がい者の取組み状況について質問しました。

市長からは、障害者就労支援センターを中心に様々な取組みを実施している。また「障害者地域適応支援事業」の取組、その他関係機関との連携、そして多様な支援を実施していき、障がい者雇用の拡大に努めたいとの答弁がありました。だれでも活き活きと暮らせる社会の実現のために、更なる取組を期待します。

③保育所(園)／学童保育室の待機児童解消について

子育て支援の政策の中で、一番望まれているのは、安心して子どもを預けることができる保育所、学童保育室の拡充です。もちろん待機児童も減らしていかなければなりません。そこで次の2点について質問をしました。

①保育所、学童保育室の拡張計画について

②学童保育室は受入れの上限が3年生から6年生に法律が変わったが、この変化にどのように対応していくかについて市長からは、保育所(園)に関しては0～2歳児の保育ニーズは高く喫緊の課題と認識している。そのような中、保育所の整備により、350人分の定員の拡充を図っていく予定である。また潜在的待機児童の増加もある。これらのニーズにこたえるためにも平成27年度から「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、待機児童解消に努めていきたい。また学童保育室に関しても、女性の就労の増加や、児童をめぐる様々な事件・事故などからくる安全面に対する不安そして法律の改正による受け入れ枠の拡大により、ニーズはさらに増している。大規模化や、老朽化した学童保育室の2室化の整備を計画的に進め、待機児童の解消を図りたい。との答弁がありました。私は、行政の取り組みは評価していますが、超高齢化社会のなか、今後、社会保障費(民生費)は否が応でも増加の一途をたどることが予想できるからこそ、可能な時に将来を担う子ども、そして子育て政策の予算は、もっと増額するべきと考えており、そのことを市長に訴えました。

⑤ゴミの減量への取り組みについて

越谷市のリサイクル率は県平均を下回っていることからみても、まだまだリサイクル率を上げることが可能と考えます。特に、生ごみ、雑紙等は積極的に実施するべきだと考えています。この度は、ゴミ減量のための施策について質問しました。市長からは、市民の皆様にご協力頂き、ゴミの減量に努めてきた。今後も越谷にふさわしいリデュース(ごみを出さない)リユース(再使用)リサイクル(再生利用)の政策を実行していきたい。との答弁がありました。

私は、ごみの削減は、ごみの処理料の削減につながる。ひいては、削減した費用で新しいサービスを始めるというような、サービス拡充に直結したPRが必要であることを市長に提案させて頂きました。具体的な例をあげれば次のような感じですか。「ゴミ処理料の削減分でコミュニティバスが1路線走らせること可能です。」このように訴えた方が、ごみの減量やる気になりませんか？

④新方川の緑道計画(歩道整備)について

最近では高齢者を中心に、歩いて(ウォーキング)健康を維持したいという方が増えています。大吉調整池という最適な散歩コースもあるため、新方川上流(弥栄小より北側)にかけては、緑道計画(歩道整備)のニーズが高い状況です。そこで、この新方川上流部分の緑道整備について質問をしました。市長からは、新方地区の河川改修は概ね完了しているが、弥栄小から上流部や右岸の弥栄町側については整備に至っていない。地域からのご要望をいただいているが、緑道の連続性の確保、利用状況等の観点から整備の必要性を認識している。市内には未整備箇所が多く残っていることから総合的に判断して検討していくとの答弁がありました。



(期待される歩道整備)

⑥治水対策について



(台風26号時、排水ポンプを点検する作業員)

私は議員になってからずっとこの治水対策について、その強化を訴え続けています。特に台風26号の際には、100人の意見をお聞きした要望書を提出させて頂き、多く施策を実施してもらいました。しかしながら近年の異常気象の中、ゲリラ豪雨対策は手を緩めるわけには行きません。そこで改めて市長に治水対策に対する決意をお聞きいたしました。市長からは、浸水対策の軽減にむけて国及県との連携を図りながら、ハード対策(応急ポンプの常設化、応急ポンプの増設等)はもちろんソフト面(パトロールの強化、技術者の育成、防災意識向上)などの対策を実施していく。との答弁がありました。私は議会では、何度もこの治水対策について聞いているためもしかしたら、執行部から「またこの質問か!」と思われるかもしれませんが、しかし昔から水害に苦しむ地域に住む議員としては、今後もこの治水対策についてはだれよりも真剣に継続して取り組んでいきたいと思っております。

⑨広域連携によるコスト削減について

平成26年地方自治法が改正(連携協約・事務の代行執行の制度の創設)され、他の自治体との広域連携が今まで以上に実施しやすくなりました。今や越谷市独自で、なんでもサービスを実施する時代ではないと思えずし、単独自治体でのコスト削減には限界があります。そこで今後の越谷市の広域連携の取組についての方向性を質問しました。市長からは、公共施設の相互利用や重症心身障害児施設「中川の郷療育センター」などでの実績がある。今後も埼玉県東南部都市連絡調整会議などを通じて可能性を探っていきたいとの答弁がありました。私は夜間急患診療所などの協同運営について検討ができるのではないかと提案させて頂きました。



⑦原子力防災／⑧放射能対策について

福島第一原子力発電所の事故をみて分かる通り、原発事故の影響は非常に広範囲です。そして原発から30キロ圏内の自治体には避難計画をつくらなければならないことが義務づけられていますが、上手くいっていないという情報も伝わってきます。越谷からは30キロ圏内にももちろん原発はありませんが、近いところでは東海原発があります。そこで東海原発に事故があった際の越谷市の災害対策について、更にはヨウ素剤の備蓄について質問しました。また越谷市は福島第一原発事故以来、人が集まる公共施設(保育所や学校等)を中心に放射線の測定、除染を行い、そして学校給食の食材についても放射線の測定を実施しています。しかし1度基準値をクリアしても、セシウム137の半減期は30年であるので、今後も安心することはできません。そこで放射線の調査(公共施設や給食など)は継続すべきでは?との質問をさせて頂きました。市長からは、国が原子力緊急事態宣言を発し、内閣総理大臣からの指示、または放射線被ばくから市民を保護するために必要があると判断した場合は、市民に対し屋内避難や避難の勧告・指示の発令など正確かつきめ細やかな情報を迅速に提供していることとしている。またヨウ素剤の備蓄は国の動向を含め、備蓄



(原子力科学館に勉強にいきました)

の必要性について検討していきたいとの答弁がありました。公共施設や給食などの放射線の調査については、国の方針を確認しながら当分の間は継続していくとの答弁がありました。

⑩公契約条例制定について

建設業を中心に公契約条例の必要性が高まっています。働く条件を整備することは、働く人の安心した生活につながります。そこで越谷市の現状での調査の進捗具合について質問しました。市長からは、条例のメリット、問題点、運用状況などを調査し、越谷市にふさわしい制度を考えていきたいとの答弁がありました。

⑪コミュニティビジネスについて

今、NPOなどの民間団体が地域の課題解決に取り組むというコミュニティビジネスが動き始めています。越谷市もこういった団体を支援し、その力を活用していくべきだと考えます。そこで支援の方向性について質問をしました。市長からは、コミュニティビジネスのセミナー開催、創業支援の相談、オフィス家賃の助成や制度の積極的な情報発信で支援を行っていききたいとの答弁がありました。

